



2019年5月9日発行

梅雨入り間近だと聞く毎日ですが、お元気ですか？梅雨に入る前のすがすがしい時季を楽しんでいますでしょうか？先日の大型連休はどうお過ごしになりましたか？お疲れありませんか？

今日から園児たちが元気に登園しました。園庭の鯉のぼりが勇ましく泳いでいますが、園児たちの元気そのものを鯉のぼりが示しているようです。その鯉のぼりの由来ですが、「かつての武家社会において、中国の故事『登竜門』の影響でお家の跡取りとなる男児の健やかな成長と立身出世を願って飾られた」のが始まりです。世の東西を問わず子供の幸せを考える親がいることのしるしです

聖書のマルコ 10 章 13 節に「イエスにさわっていただくために、人々が幼子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。それを見てイエスは憤り、彼らに言われた。『幼子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。よく聞いておくがよい。だれでも幼の子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない。』そして彼ら抱き、手をその上において祝福された。」とあります。つい最近気になることは親が子供を「しつけ」ということで厳しくせっかんし命を奪ったニュースがありました。もちろん親は子供の出世とすこやかな健康のために「しつけ」と称して叩いたのですが、ここに大きな違いが生じています。本当に子どもを愛しているならば「叱る」でしようが、ただ単に自分の言うことを聞かないと「怒る」親がなんと多いことでしょう。

エレン・ホワイト女史は次のように言っています。「あなたは愛をもって子供を矯正しなくてはなりません。子供をしたい放題にさせておいた上で、怒り、彼らを罰するようなことをしてはなりません。そのような矯正の仕方は、悪を正す代わりにそれを助長するだけです。あやまちを犯した子供に対して怒りの感情を表すことは、悪を増大することになります。それは子供の最悪の感情を引き起こし、あなたが彼をかわいがっていないかのように思わせます。あなたがもし自分を愛しているならそのような扱いはできないはずだと、彼は自分に言ってきかせるのです。・・・子供をどうしてもこらしめなくてはならないときは、声を高めてはなりません。自制心を失わないようにしましょう。子供を教えさとするときに怒る親は、子供より大きなあやまちをしているのです。」(心を育てる家庭教育 110～111ページ) 参考にしたいものですね。

2019年5月9日

石川三育保育園 園長 富浜宗言